

名古屋大学医学部の歩み — 鶴舞地区移転百周年の歴史 —



高橋 昭

名古屋大学名誉教授

昭和30年(1955)卒

名古屋大学医学部・附属病院の沿革

	1860	1870	1880	1890	1900	1910	1920	1930	1940	1950	1960	1970	1980	1990	2000
	江戸			明治			大正	昭和	昭和			平成			
名古屋大学医学部					愛知医学校		愛知県立医学学校	医学専門学校 愛知県立	愛知医科大学 愛知県立	名古屋医科大学 官立	名古屋帝国大学	名古屋大学(旧制)			名古屋大学(新制)
名古屋大学病院					愛知県公立病院		愛知県立	愛知医科大学 愛知医科大学 愛知医科大学	名古屋医科大学 附属病院	名古屋帝国大学 医学部附属病院	名古屋大学 医学部附属病院				名古屋大学 附属病院 医学部
所在地					天王崎町			鶴舞町							

1914(大正3)年3月



仮病院・仮医学校

明治4年(1871)～5年(1872)

名古屋藩評定所址・町方役所址

名古屋藩知事 徳川慶勝 明治3.12.3～4.7.14

廃藩置県 明治4.7.14

名古屋県 参事 間島冬道 明治4.11.22～4.12.22

権令 井関盛良 明治4.12.12～5.4.2

愛知県 権令 井関盛良 明治5.4.2.～6.5.30

名古屋大学の濫觴

名古屋県による仮病院開業の布告

辛未 [明治4年] 8月8日 (1871年9月23日)

府令
通達第百名

今般當縣元評定所假病院と取建明九日開業の事、
左間疾病之者、士族卒を
始農高至迄普ク治療ヲ
請々花可致事

但規則之儀、同所より可
兼合事、尤他後方之者、
而モ治療と請々候事

辛未八月
名古屋縣

〔愛知県公文書館 蔵〕

八月八日

左の通り御布告

今般當縣元評定所に仮病院を取り建て、明九日開業いたし候間、疾病の者は士族卒を初め農商に至る迄普く治療を請け候様致す可き事。

但し規則等の儀は同所より承合す可き事。尤も他管下の者にてても治療を請け候儀は苦しからず候事。

辛未八月

名古屋縣

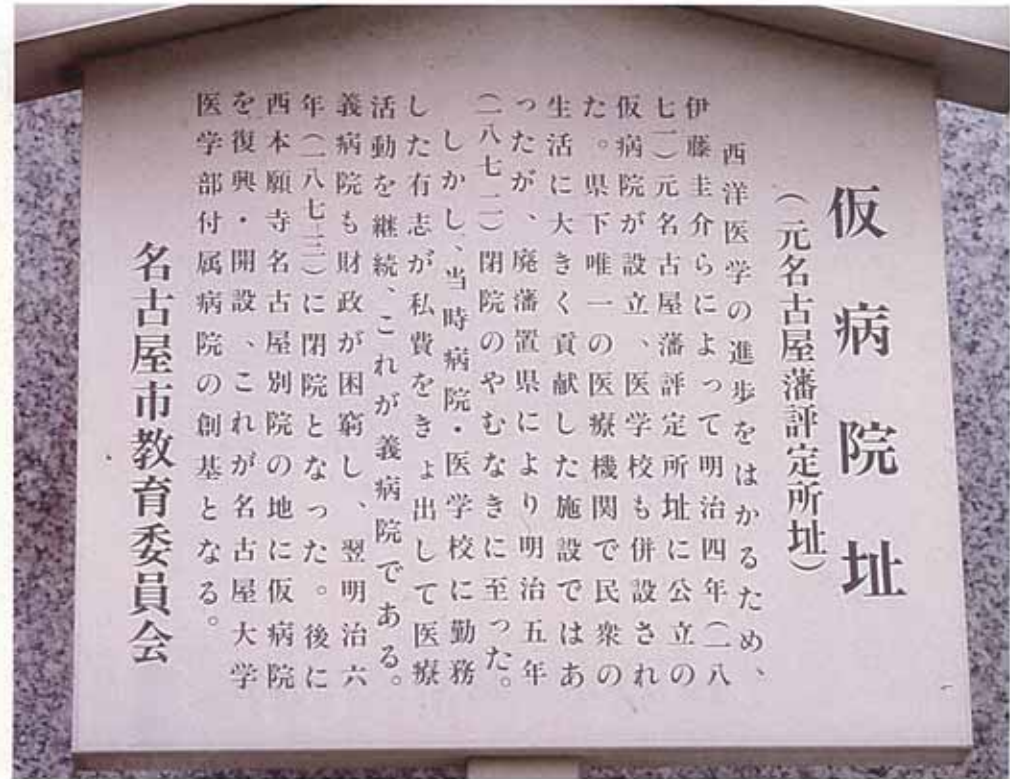
仮病院址

(元名古屋藩評定所址)

愛知県産業貿易館 本館 (名古屋市中区丸の内三丁目1)

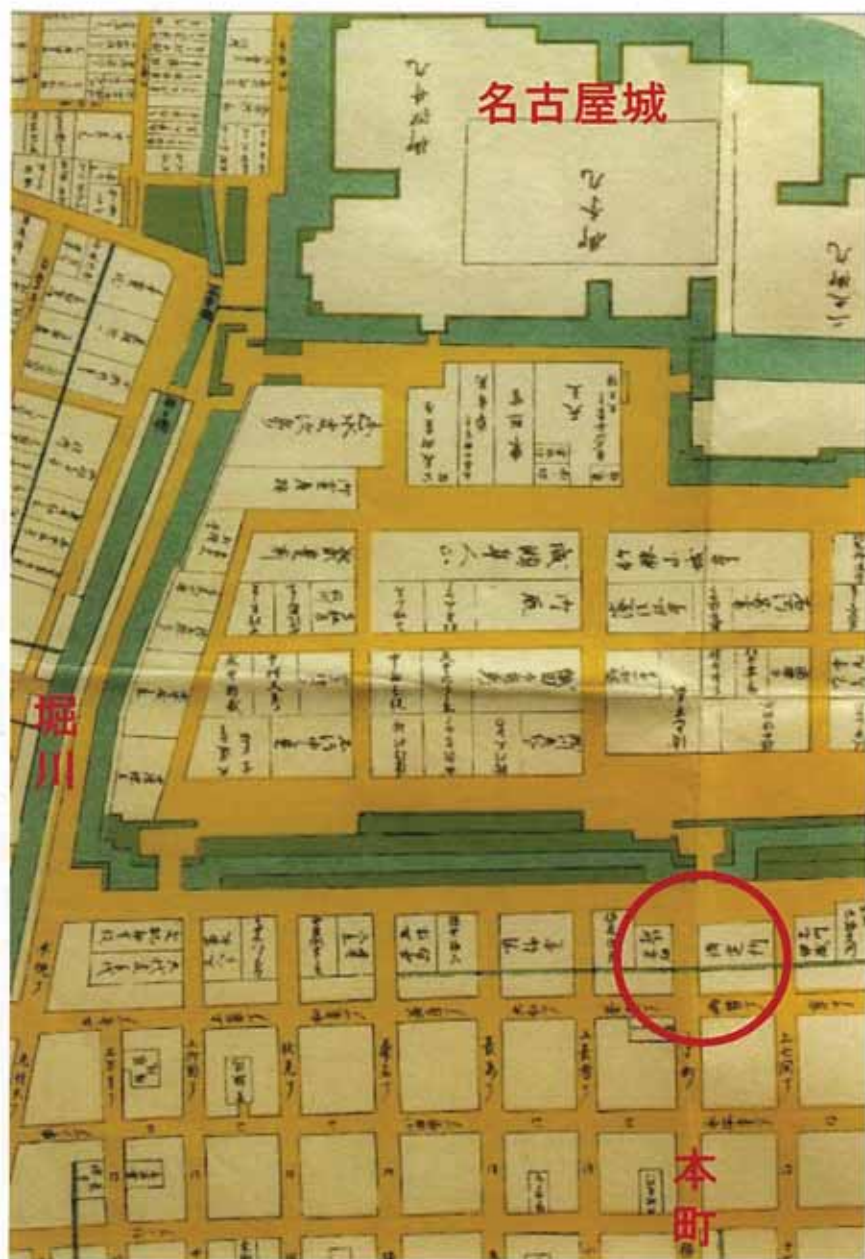


2000年8月7日



1999年3月6日

[高橋撮影]



安政名古屋図（尾張国櫻井藏）

仮医学校址

(元名古屋藩町方役所址)
愛知県産業貿易館西館
(名古屋市中区丸の内二丁目4)



[1999年3月6日. 高橋撮影]

愛知医学校～愛知県立医学専門学校
愛知病院～愛知県立愛知病院

天王崎時代

明治10年(1877)7月～大正3年(1914)3月

堀川東側河畔の旧千賀邸跡
医学校校長 佐々木復介

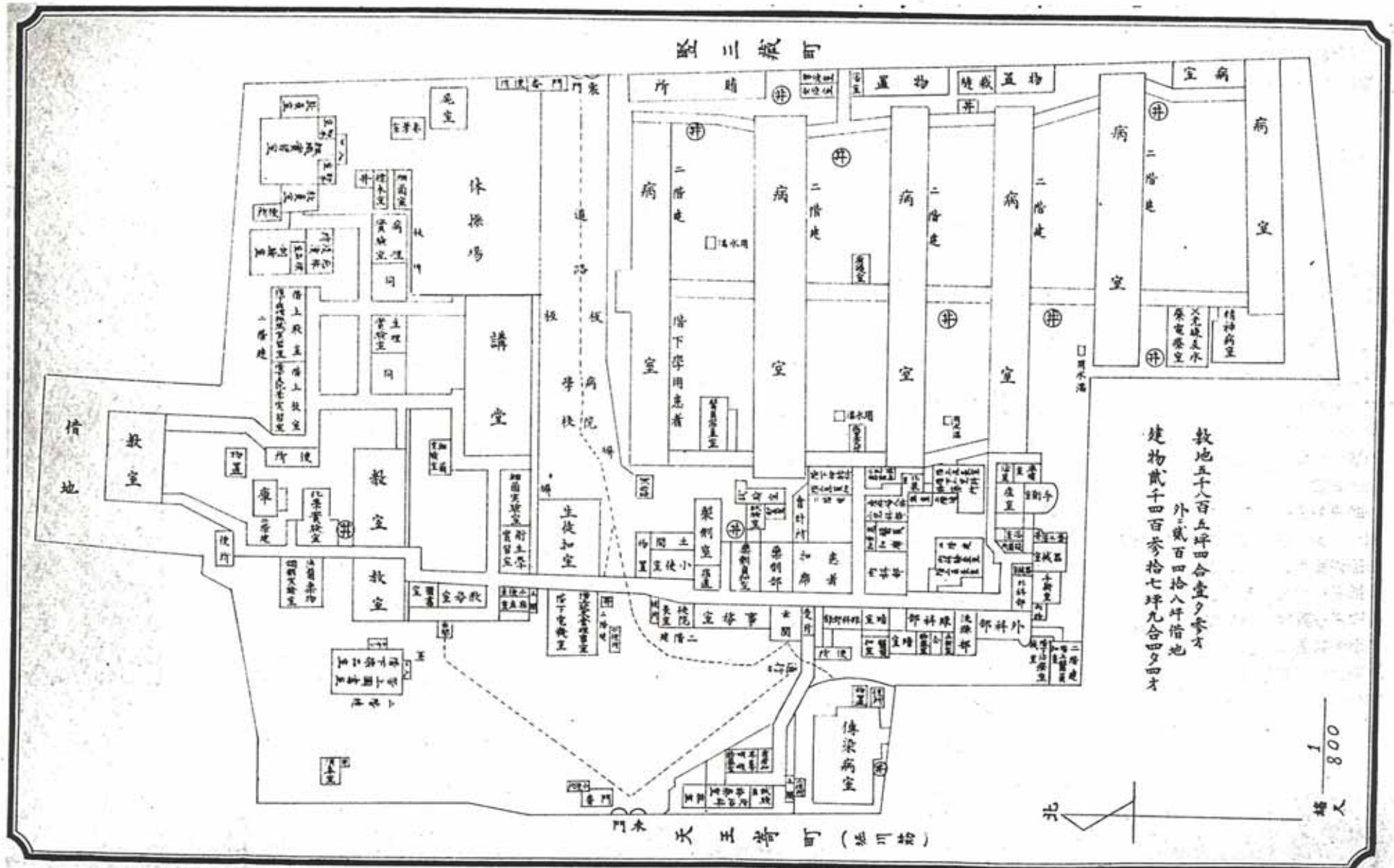
愛知病院と愛知医学校

(1900年頃?)



[名古屋市鶴舞中央図書館蔵. 『目で見える名古屋の100年』(上巻). 名古屋: 郷土出版社, 1999]

天王崎時代の愛知医学校



堀川河畔に院校新築

- 明治9年(1876)5月 起工
- 明治10年(1877)7月1日 開院式
- 建築費 19,757円余
- 旧千賀邸跡 5,700坪 (18,829m²)

後藤新平(医学校長心得)

土地は街路より頗る高い。西側の堀川を直下に
瞰る。堀川は船舶往来する。遠くは曠潤平坦の
田野を眺め、眼界尽る所に多度山・伊吹山聳え、
実に美観を謂うべし。

愛知医学校址 (天王崎)中区



愛知医学校址(天王崎)
 明治七年(一八七四)西本願寺別院
 に現在の名古屋大学医学部の前身
 である医学講習所が設置され、医
 学研究の先駆をなした。その後、
 明治十年(一八七七)この地、堀川筋
 の天王崎に移り愛知県立医学専門
 学校と改称した。
 次に大正三年(一九一四)同専門
 学校は中区鶴舞に新築移転し、大
 正九年(一九二〇)愛知医科大学(県
 立)に昇格、昭和六年(一九三二)名
 古屋医科大学(国立)として移管
 され、昭和十四年(一九三九)名古屋
 帝国大学医学部、戦後名古屋大学
 医学部となった。
 名古屋市教育委員会

The site of Aichi Medical School (Tennozaki)
 In 1874 at Nishi Hongany Betsuin Temple, a medical training center, the
 Predecessor of Nagoya University's School of Medicine, was set up for
 medical research, practice and education. It was later moved to this
 location under the name of Aichi Prefectural Medical School. In 1914 it
 was then moved to its present location to a new building in Tsurumai,
 Naka ward.

1998年1月31日. 高橋撮影

愛知県布達

明治九年五月、愛知県令安場保和

従前の英学教育を廃し独逸学を以て教授

米国人ヨングハンスほか放備
奥地利国人ローレツ、東京府民司馬凌海雇入

富縣第百十二號

病院ニ併立有之候醫學講習場之義從前英學ヲ以て教授致來候處相繼シ自今更ニ獨逸學ヲ以て教授セシメ候條此旨布達候事

明治九年五月廿九日

愛知県令安場保和

明治九年第百二十四十

富縣第百三號

富縣公立病院ニ從前備入有之候教師米國人ヤクトル・ヨングハンス及ヒ副教師足立盛至并通辨鈴木宗泰トモ本年四月満期ニ付放備致シ今般更ニ左ノ兩名雇入本日ヨリ醫學教授及ヒ患者診治令執行候條醫學志願之者ハ入學勉強シ病患ノ者ニハ速ニ出院治療相受候條可致此旨爲心得布達候事

旧診察時限ヲ初病院及醫學講習場規則等更ニ改訂可致等ニ有之追テ及告示候迄俾テ從前之通ト可相心得事

明治九年五月十六日

愛知県令安場保和

明治九年第百二十二

奥地利國人

名
フルムルト、ホン、ローレツ

東京府平民

副教師通辨兼
醫師

從六位 司馬盈之

後藤新平 安政4年(1857)～昭和4年(1929)



後藤新平とRoretz

- 陸中国塩釜村(現奥州市水沢)で出生
- 明治6年2月～9年:須賀川医学校
(一時, 福島洋学校)に学ぶ
- 明治9年8月:愛知県病院三等医.
Roretz, 司馬凌海から医学・外国語を履修(凌海家に寄宿).
- 明治14年10月(24歳):医学校長・病院長.
学士を採用. 大幅な組織改革.
- 明治15年4月:板垣退助遭難, 治療.
- 明治15年5月:医学校を甲種学校に.
- 明治16年1月:内務省御用係に転勤.

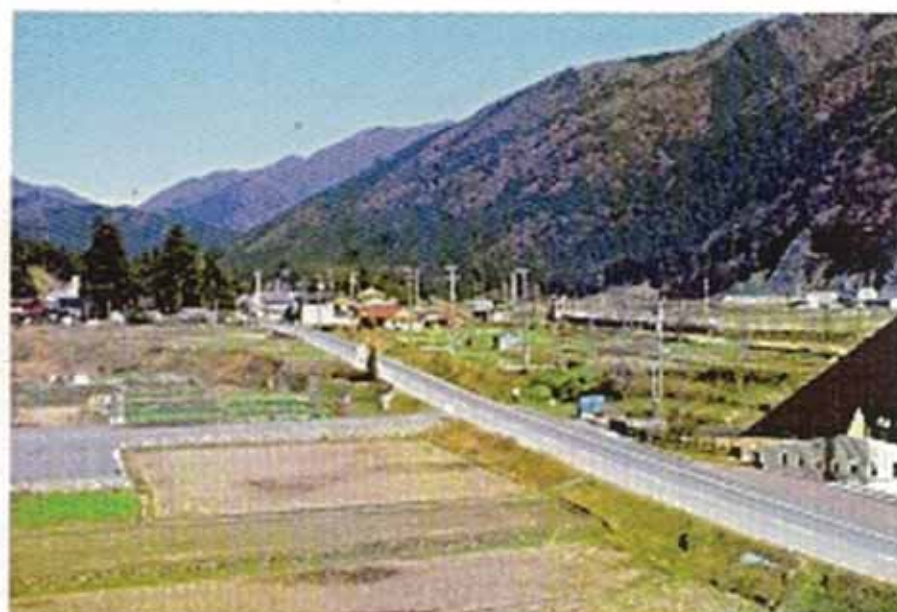
のちドイツ留学, 内務省衛生局長,
台湾総督府民政長官, 満鉄総裁, 逓信大臣,
外務大臣, 東京市長などを歴任. 辣腕を振るう.

濃尾大地震

- 明治24年(1891)10月28日. 6:38 a.m.
- M:8.4 (日本の内陸直下型最大の地震)
- 全壊焼失14万戸余, 死者 7466人.
- 名古屋市: 中心街に被害が集中, 名古屋駅などが倒壊



震災当時の断層 [小藤文次郎 撮]



現在の断層

濃尾大地震(明治42年)による 愛知医学校・愛知病院の被害

- 当病院・学校ともに一瞬にして被災.
- 本校の解剖局および化学局附属製錬室は大破, ほとんど倒壊せんとする. 各教室, 各局, およびこれに属する機器器具で損傷せざるはなし.
- あたかも天柱折れ, 地維断つが如くにて, 蘆舎倒壊焼燼, 死傷無数, 実に酸鼻に堪えざるの惨状を呈するに至れり.

[愛知病院記事, 愛知医学校記事]

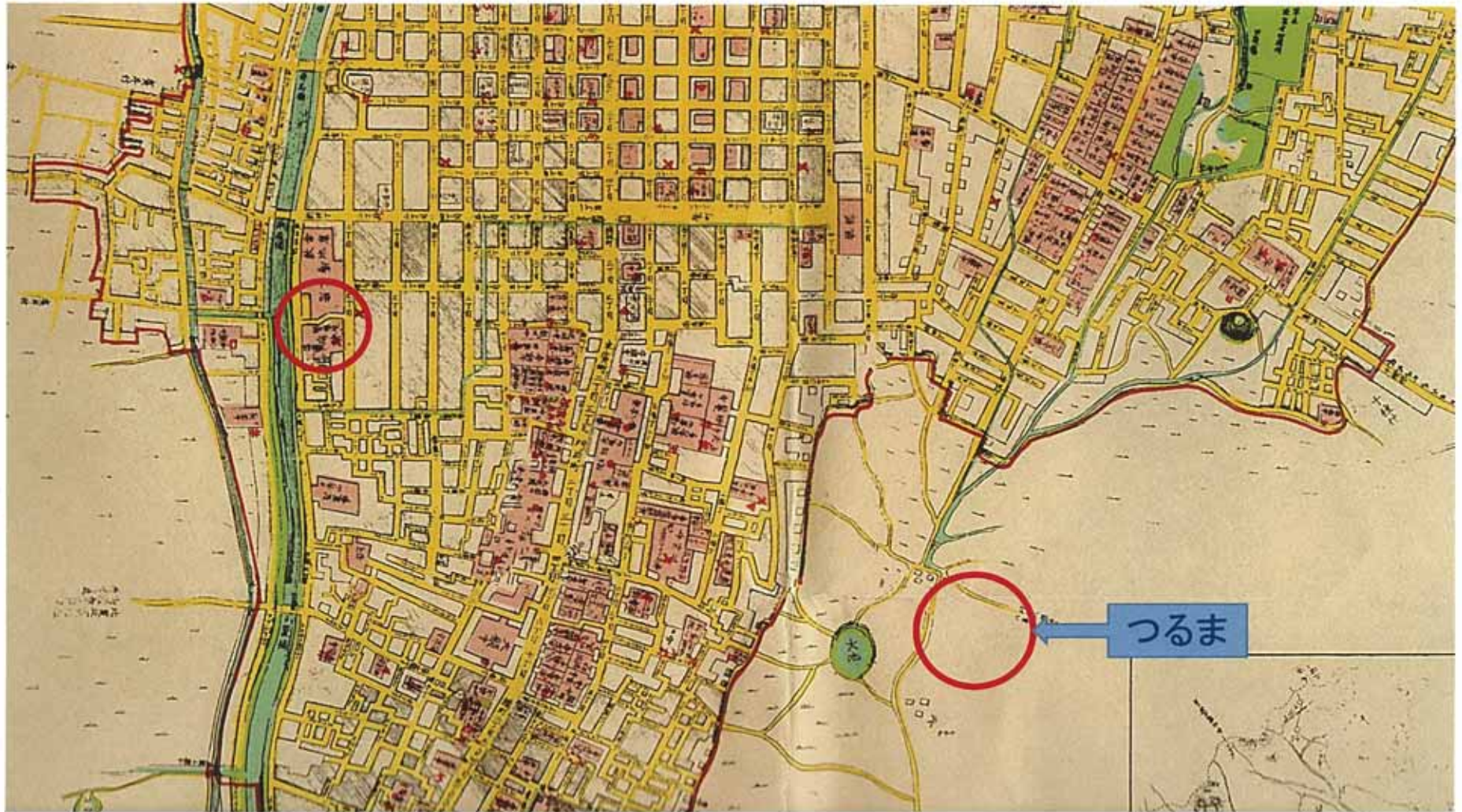
天王崎時代の終末

- 明治20年：第一～第五高等中学校に**医学部設置**
- 同：府県立医学校への**地方税の支弁禁止**
(愛知・京都・大阪の3校以外は廃校)
- 明治24年：**濃尾大地震による被災**
- 明治36年：愛知医学校→愛知県立医学専門学校**昇格**
- 病院の**独立診療科**：内科・外科・眼科の**3科のみ**
- 名古屋の商業の中心：堀川畔→栄地区 **変遷**
- 学校の**陳旧化**，**老朽化**(明治10年建築)
- 土地の**狭隘**(18,829m²)
- 設備：**ガス・水道なし**

天王崎から鶴舞へ

- 明治38年(1905): 院校改築案 県会で可決
- 明治43年(1910): 鶴舞地区の6万余坪買入
- **大正3年(1914)3月: 新校舎, 新病院完成(工事4年)**
- **同4月: 診療, 授業開始**
- 大正4年(1915)11月: 『愛知県立医学専門学校
愛知病院新築落成式記念』発行
- 大正5年(1916)5月: 祝賀会開催

天王崎→つるま(津留間)



明治10年(1877) 愛知県第一区

鶴舞移転 (1914)

長院校現示



景全院病知愛立縣並校學門專學醫立縣知愛

学校

病院本館 外来・病室

特等病室



師技縣原西

竜ヶ池付近から見た学校(左)と病院(右)

愛知県立医学専門学校 本館

愛知県立医学専門学校前景



愛知県立愛知病院 本館

景前院病知愛立縣



戦災前の鶴舞地区



米軍の空襲により壊滅

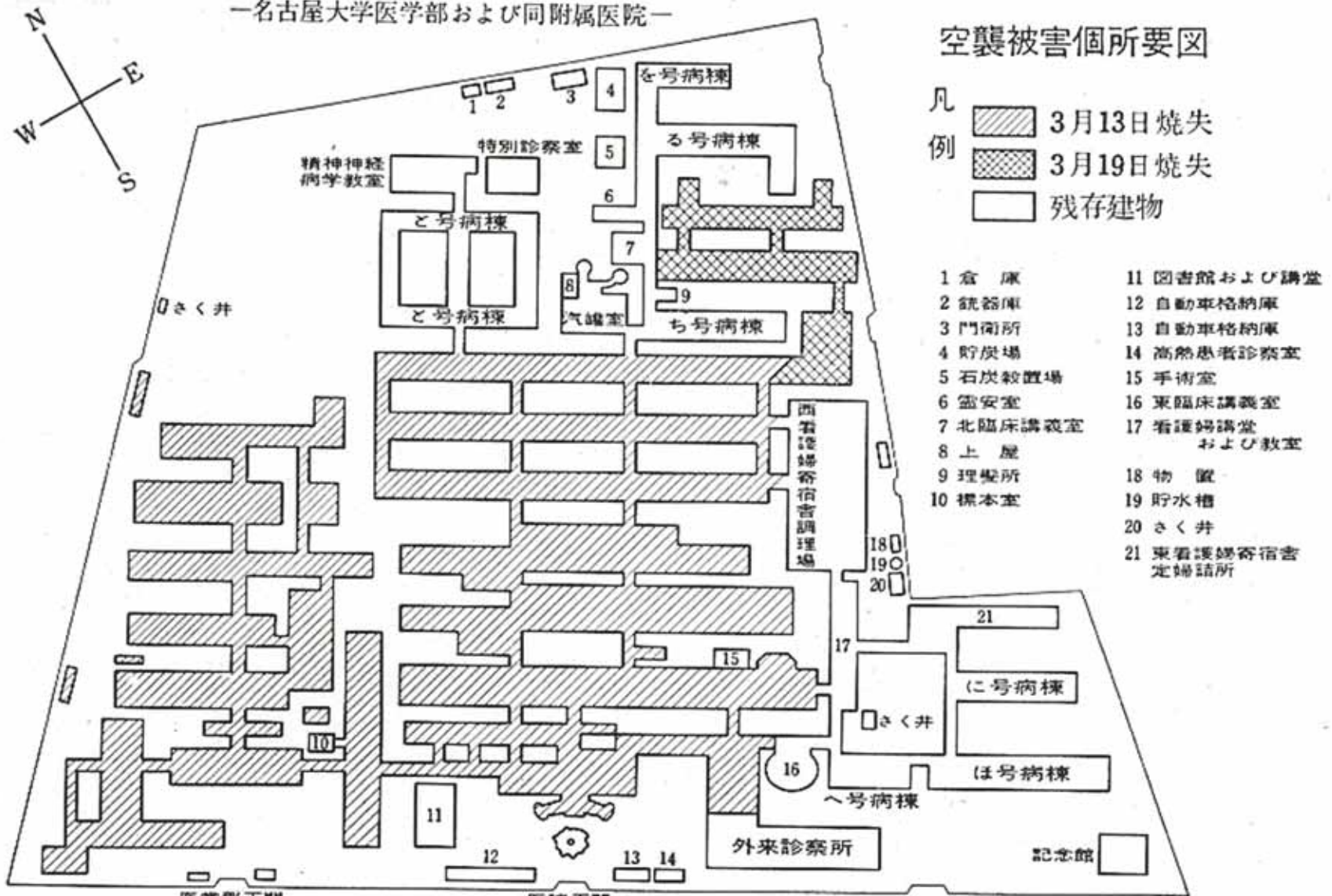
昭和20年(1945)3月11~12日 B29:285機 市街地中心部
3月19日 B29:291機 市街地中心部



鶴舞地区

昭和20年(1945)

—名古屋大学医学部および同附属医院—



鶴舞地区 昭和30年(1955)



外来棟1階廊下風景 昭和33年(1958)頃

日比野教授・滝川助教授・祖父江講師・伊藤医局長



鶴舞地区再開発計画

文部省認可

1991年7月



名古屋大学医学部 附属病院新病棟 完成1999年6月11日



高橋撮影

